

書棚

『婦人界』と『婦人世界』

文庫には現在約千五百種の創刊号がある。年代順に並べられた創刊号の書棚を眺めると歴史を垣間見るようで面白い。今回は日露戦争の前後に発刊された『婦人界』（金港堂書籍併刊）と『婦人世界』（實業之日本社刊）を紹介しよう。

『婦人界』は明治三十五年七月の創刊である。「発刊のことば」に曰く「徒らに男女同権とやらを唱ふる、採り申さず候（中略）男子のかたをたすけ、なだめ、はげます、是ぞ女の本分にては候ふべき」家庭欄では西郷侯の家庭を紹介し、侯の夫人がいかに家庭の中心となつてゐるかを書き、この家を訪ねる人「侯爵家を懐かしく思わぬものがないのは」「夫人の徳である」と評している。

『婦人界』がその後どういう歴史をもつかは知らないが「発刊のことば」や記事の内容か

らして当時の上流階級の婦人の家庭雑誌として創刊されたことは容易に想像できる。

『婦人世界』は明治三十九年一月の創刊である。『婦人界』から四年後とはいへ、ほぼ同時代（自由主義の影響を受けて婦人問題が叫ばれ始めた頃）である。この雑誌のめざすところは、婦人が「家庭を中心とする」点では『婦人界』と同じだが、さらに「独立的精神ある婦人」となつて男子の婦人に対する旧来の「陋習を打破」しようとする点にある。

『婦人世界』の女性解放の主張はやがて『青鞵』へと続いていく。『婦人世界』の「青鞵」へと続いていく。

最後に『婦人世界』の中から「下女の歌」の一節を紹介しよう。家の奥さま何してゐる？炬燵でお芋を食べている！おらアは此處で何してゐる？流してお釜をあらつてゐる！——『婦人界』を「家の奥さま」にみたてるのも一興だと思ふのだが！

話題人間の履歴書

ジユディ・オング

ワコールのCFソング『魅せられて』が大ヒット。二カ月に百二十万枚ものレコードを売り尽したという（CBSソニー販売促進部）今や時の人である。日米合作映画『ジョーグン』のヒロインの役を突然辞退して、話題はさらに拍車をかけた。

ジユディ・オング。一九五〇年 貿易商、翁治栄氏の長女として台湾・台北市に生まれ二才の時来日。東京・四谷の中華学校、代々木スクール、アメリカン・スクールを経て上智大学の国際学部を卒業。現在は在日華商の間で、巨人軍の王貞治選手、囲碁の林海峯とならび、華商三宝と呼ばれる存在だ。

一九六〇年 劇団ひまわりに入団。翌六一年、十一才の時日米合作映画『大津波』で芸能界にデビュー（デビュー作が日米合作映画というのも何かの因縁か）その後、テレビを中心に活躍。芸歴一九年のベテランである。歌手としてのデビューは一九六七年春。コロムビアから『たそがれの赤い月』を出した。後にCBSソニーに移籍して合計二〇余枚のレコードを出したがパッとせず、今回の大ヒットで一躍スターダムにのし上つた。

彼女の多才ぶりはつとに有名で、台湾、中国語をはじめ、日本語、英語、スペイン語を話し、シンクロノイズド・スイミング、乗馬をものし、アメリカン・スクールに通つていた頃に始めた焼きもの、油絵などの趣味もある。五年前に始めた版画では、七六年、七七年と日本版画院展に連続入選。七八年には同展初の努力賞を受け、作品展も開いた。一九七三年、日本に帰化し、名前を翁倩玉から翁玉恵（おきなたまえ）と変えた。今、売れに売れている二九才である。

（雑誌記事を参考にしました）